

● まちづくり市民会議 ●

【「デマンド交通検討部会」から提言書が提出されました】

山陽小野田市の公共交通空白・不便地域における 市民の交通手段の導入について提言

本市では、公共交通空白・不便地域を解消する交通手段として、デマンド交通の導入を検討しています。そこで、幅広く市民の声を反映させるため、市民公募の委員 12 人で構成する、まちづくり市民会議「デマンド交通検討部会」を設置しました。

会議は、2 月 12 日から 4 月 30 日までの間に 6 回開催し、委員が自らの生活実態も踏まえた意見を出し合い、いかにして利用しやすいシステムにするかを熱心に話し合いました。

会議の成果は「提言書」として取りまとめられ、去る 5 月 21 日、曾瀬護座長と吉富拓茂副座長が市長に手渡しました。今後、デマンド交通を導入するにあたって、貴重な資料として有効に活用されます。

※デマンド交通とは、事前に電話などで予約した人の家や指定する場所を順次まわりながら、それぞれの目的地で降りるといったような利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一つの形態です。

◎問い合わせ先：商工労働観光課（☎ 82 - 1150）



▲提言書提出後の会談のようす

平成 25 年（2013 年）5 月 21 日

山陽小野田市長 白井 博文 様

まちづくり市民会議「デマンド交通検討部会」

提 言 書

①課題名

公共交通空白・不便地域における市民の交通手段の導入について

②提言内容

山陽小野田市の公共交通空白・不便地域における市民の公共交通手段の導入について、山陽小野田市の公募に応募した市民 12 名が、生活安全課および商工労働観光課の説明、資料提供、現地視察の便宜等を受けながら、6 回の協議を重ねてきた。ここにその結果を提言する。

（1）山陽小野田市の公共交通の現状および改善提言の骨子

山陽小野田市の公共交通は、一部 JR の鉄道があるものの、主にバス路線に拠っている。小野田地域中心部や山陽地域中心部、埴生地区ではバス停までの距離が 500m 以内の地域が多いものの、山陽地域の北部や南端部では、バス停までの距離が 1km 以上の集落がある。

また、バス路線はあっても、便数が少なく、通院、買い物、通学、市の諸施設利用などの日常生活に不便を生じている地域がある。

一方、既存のバス路線の経営収支は、利用者数が少なく、赤字であり、それを補う補助金の額が漸増している。

これらの現状を改善し、住みやすい山陽小野田市にするために、事前に電話などで予約した人の家や指定する場所を順次まわりながら乗車させ、それぞれの目的地で降ろすというような、小型車両を用いた柔軟な運行が可能な公共交通（以下、デマンド交通と呼ぶ）が望まれている。